

私の2008年秋PE 受験記

○氏名：武内洋幸

これからPE 受験、特に環境工学で受験される方に、すこしでもお役に立てるようにペンを執りました。



受験分野の決定

大学専攻は建築学で、一級建築士として建築設計を業務としていた中で、環境問題に対する工学的アプローチ（環境配慮設計など）に関心を寄せていた。そこで37歳でアメリカのミシガン工科大学大学院で建設環境工学を専攻し、MS in Environmental Engineering を修了した。帰国後すぐ（2003年）FE試験に合格し、PE 受験を計画していた。大学の専攻の環境工学で受験することには迷いがなかった。土木で受験することも検討はしてみたが、土木の受験内容には、環境の専門家としては物足りなさを感じていた。

受験州の決定

日本では環境工学は受験できないこともあり、迷わず母校のあるミシガン州に決定した。受験会場が母校であることもあり、安心して申請しました。

受験申し込み

2008年10月受験に際し、7月30日にELSES にインターネットで申し込んだ。事前にABET 審査（大学および大学院卒業証明書、成績証明書の審査）を終えていたので、メールでまもなく申し込み終了の返事が来た。受験票が着たのは、試験3週間ほど前だったと思う。ABET 審査のみ終了しておけば、非常に簡単な手続きで受験できることになったのは、とてもよかったことであると感じていた。

受験学習

2007年12月に受験を決意し、4月受験では学習が間に合いそうもなかったため、渡米しなければならぬこともあり確実に合格できることを考え、2008年10月を目標とした。毎日2時間は学習しようと決意したが、本格的にやり始めたのは6月中旬であった。毎日2時間の学習時間は確保でき、4時間以上学習する日も多々あった。総合学習時間は300時間程度あり、これだけやればまず合格できることを確信していた。環境工学は全分野を平均的に学習することが重要であり、残念ながら私は経済アナリシスを捨てていたので、本番試験もできなかった。環境工学においては全分野学習しておくことをお勧めする。自分の得意分野だけを重点的にするというのは良い作戦ではない。教材は以下の5冊を学習した。それ以上深い学習は必要ないと思われる。

- ① Lindeburg Reference Manual Environmental Engineering
- ② Lindeburg Practice Problem for the Environmental Engineering PE Exam
- ③ Environmental Engineering Practice PE Exam
- ④ Sample PE Exam

⑤ KAPLAN PE License Review

学習プランは4期+仕上げとした。英語には慣れているとはいえ、また5冊だけとはいえ、結構ボリュームがあり、計画と実行を試行錯誤しながらということになったが、本番まで修正しながらも計画はほぼ実行できたと言ってよかった。学習方法は以下のとおり。

1期 参考書⑤をすべて読む。例題にもペンを執りながらすべて読む。3週間

2期 参考書②を1日7問解く。すべての問題を解く必要はない。6週間

3期 参考書④を3回繰り返し解く。2週間

4期 参考書③を3回繰り返し解く。3週間

仕上げ 予想問題を想定し試験の模試として集中し学習する。2週間

渡米

会場は母校だったので、慣れた旅だった。試験3日前夕方にホテルに着いた。会場近くのサービスのよさそうなホテルをネットで契約した。試験は早朝なのでタクシーを手配してもらい、会場に向かった。会場には8人しか受験者がいなかったが、その中で1人母校の友人がいて会話した。

試験

計算問題が8割以上であり、計算機を十分に活用した。勘で解いた文章問題が2問ほどあったが、計算問題は統計学と経済学以外はほぼ自信があった。統計学と経済学はあまりやっていたので残念であったが、合否には支障がないと思った。

合否通知

合格通知が封書できたのはクリスマスイブだった。なによりのクリスマスプレゼントであった。Passと書いてあるだけで簡単なものだった。今後の手続きについての説明があり、登録の準備をすぐ計画した。

全体の感想

試験会場に持ち込む参考書は上記5冊+辞書で十分であり、また計算問題に慣れておいたので、参考書を見たのは公式を確認するだけであった。つまり公式だけで試験は十分だった。安心のため上記5冊は持ち込むことをお勧めする。